

目 次

| | |
|----------------------------|-----|
| はじめに. | 2 |
| I 生命情報学プログラムの概要. | 3 |
| 資料. | 7 |
| II 生命情報学カリキュラムの実施. | 25 |
| 1 総合生命科学. | 27 |
| 2 生命情報学・生命情報学演習. | 31 |
| 3 予測生物学. | 34 |
| 資料. | 35 |
| III インターンシップの実施. | 39 |
| 資料. | 54 |
| IV 研修・研究への支援の実施. | 55 |
| 1 研修への支援. | 57 |
| 2 研究への支援. | 85 |
| 資料. | 86 |
| V 公開セミナーの開催. | 87 |
| 資料. | 93 |
| VI シンポジウムの開催. | 95 |
| 資料. | 107 |
| VII 3年間のまとめ. | 109 |
| 1 生命情報学プログラム実施の効果. | 111 |
| 2 生命情報学の教育システムの充実. | 116 |
| 3 さまざまなプロジェクトとの連携. | 118 |
| 資料. | 119 |
| おわりに. | 125 |

はじめに

「生命情報学を使いこなせる女性人材の育成」プログラムは、平成17年度に「魅力ある大学院教育」イニシアティブ(理工農系)によって、郷通子前学長のリーダーシップのもとに、2年間のプログラムとしてスタートしました。そして、平成19年度からは「女性リーダー育成プログラム」のサブプログラムとして支援をいただき、プログラムを継続的に実施してきましたが今年度をもって区切りを迎えることとなりました。

今年度も、生命情報学分野の講義と演習を大学院共通科目として開講するとともに、インターンシップや研修・研究への支援を行いました。今年度はこれまでで最も受講生が多く、いろいろな面で、プログラム担当者には多忙な1年となりました。また、5回の公開セミナーや海外からの参加者も交えた国際シンポジウムでは、学内外の学生や研究者に、本プログラムの活動についても知っていただくことができました。

本報告書では、平成21年度のプログラムの活動をまとめるとともに、これまでの3年間の活動を振り返ります。「女性リーダー育成プログラム」として生命情報学プログラムを受講した学生はこの3年間で54名、プログラムの必修科目を履修した学生は延べ213名にのぼります。本プログラムを通して学んだことが、多くの学生の勉強や研究、さらにはキャリア選択に意義あるものとなることを期待するとともに、本学の生命情報学分野の教育研究活動がより充実し、さまざまな分野との連携を組みながら、さらに発展することを願っております。